保健委員の男子が女子の胸囲を測定した身体測定

中学3年生の身体測定の日の話。

なんと保健委員として、今年は僕が女子の胸囲を測ることになった。

本来なら女子委員がやるはずだったが、うちのクラスは委員が自分1人しかおらず、僕が女子の胸囲測定も引き受ける形になった。

顧問の先生から「悪いけど頼むよ」と言われたとき、最初は断りたかった。そりゃあ同じクラスの女の子のおっぱいを見れるのは嬉しいけど、それ以上に気まずいし、嫌われたくなかったからだ。

でも「必要なことだから」と押し切られ、結局引き受けてしまった。

朝のホームルームで先生が改めて説明した。

「今日は身体測定だ。男子も女子も測定は保健委員の浜田が担当する。」

クラス中がざわついた。

男子の一部がニヤニヤし、女子たちは顔を見合わせて騒然としていた。

「おいマジかよ」

「浜田、後で女子のおっぱいどんなだったか教えろよ！」

僕もその場で俯いて、机の木目をじっと見つめていた。

昼休みが終わり体育館に移動し、測定が始まった。

まず身長・体重を全員で済ませ、次に胸囲・ウエストの順。

男子の測定が先に終わり、女子の番になった。

カーテンで囲まれたスペースの前に、女子たちが順番に並び始めた。

上半身はすでに脱いでいて、下は体操着のブルマか短パンだけ。

誰もタオルやシャツで隠そうとはせず、ただ両手を胸の前で交差させて立っている。

順番は出席番号順。

最初は鮎川真央。

彼女は普段明るくて声が大きい子だったが、このときは違った。

僕の前に立つと、ゆっくり両手をほどき、手を下げて胸を前に出した。